



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：ベンガジで退役将校率いる部隊がクーデター

16日、東部ベンガジで、ハリーファ・ヒフタル退役少将率いる部隊が、国軍の命令を受けず一方的に「2月17日旅団」、「リビアの盾第一旅団」、イスラーム過激派の「アンサール・シャリーア」を攻撃するという事件が発生した。ヒフタル少将率いる部隊は、「国民軍」(al-Jaysh al-Watany)と名乗っている。18日には、「国民軍」は国民議会を襲撃し、議会の停止を要求した。一方、「国民軍」との関係が不明確な将校5名が、国民議会の停止を宣言するという事態も発生した。

ヒフタル少将は2月14日にもクーデター未遂を起こした人物である。また、今回のような政府に対する攻撃事例は、アリー・ザイダーン元首相誘拐未遂、民兵組織による国民議会襲撃、東部分離主義者による原油輸出港占拠など、多数発生してきた。今回の事態は、カッザーフィー体制後の新体制構築過程において、政府が民兵組織、軍部隊、諸部族への統制を喪失し、治安が崩壊しつつある中で起きた一連の出来事の1つと捉えることができる。また後述するように、クーデター側がイスラーム主義者と関係のあるマイーティーク新首相の内閣発足を阻んでいることから、クーデター側は反イスラーム主義の立場にあると考えられる。以下は、16～18日における事件推移の詳細である。

16日

- ・東部ベンガジで、ハリーファ・ヒフタル退役少将率いる「国民軍」が、2月17日旅団、リビアの盾第一旅団、アンサール・シャリーアを攻撃。国軍のウバイディー参謀総長は、ヒフタル少将の軍事行動は非合法であると非難。交戦において少なくとも14人が死亡、約100人が負傷した。

17日

- ・ヒフタル少将はテレビを通じ、今次軍事行動はベンガジのイスラーム過激派を一掃するために行なったと発表。「国民軍」公式報道官のムハンマド・ヒジャーズィーは、国民議会は既に2月7日（議会任期が終了した日付）に正統性を失っており、機能不全に陥った国民議会及び現政権こそがリビア社会の諸悪の根源であると述べた。
- ・サハメイン国民議会議長、シンニー首相代行、ウバイディー参謀総長は共同声明を発表し、ヒフタル少将の軍事行動はクーデターであると非難。国軍はベンガジ上空を飛行禁止区域に設定。
- ・ベンガジでの戦闘による死者数は70人に上った。

18日

・国民議会でマイーティーク新内閣の承認決議が行われようとしたところ、ヒフタル少将率いる「サワーイク旅団」と「カアカーア旅団」が国民議会議堂を襲撃し、議員7人を拘束した。拘束された者にサハマイン議長が含まれたと報道されたが、後に7人は釈放された。「国民軍」のヒジャーズィー報道官は、議会攻撃の理由を「国民議会議堂はテロ集団を保護している」ためと述べた。

・軍警察司令官のムフタール・ファルナーナ大佐ら将校5名は、テレビで以下4点から成る声明を発表した。(1) 国民議会議堂の停止、(2) 憲法起草委員会が議会議堂機能を代行する、(3) 議会選挙及び大統領選挙までは現内閣を続行する、(4) 軍・警察・真の革命者が国の安全を保障する。3点目は、マイーティーク新内閣の成立を阻止する目的があるとみられる。これら将校5名とヒフタル少将の「国民軍」との関係は不明である。

(金谷研究員)

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799